

CASBEE-建築(新築)2016年版  
宝製菓株式会社 西倉吉工場新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.31</b>				<b>2.8</b>
<b>1 音環境</b>				<b>2.6</b>	0.15	-	-		<b>2.6</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				<b>3.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-		
2 界壁遮音性能				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-		
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.6</b>	0.35	-	-		<b>2.6</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 室温				<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	-		
2 外皮性能				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-		
3 ゾーン別制御性				<b>3.0</b>	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-		
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.7</b>	0.25	-	-		<b>2.7</b>
3.1 昼光利用				<b>1.8</b>	0.30	-	-		
1 昼光率				<b>1.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-		
2 方位別開口				-	-	<b>3.0</b>	-		
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-		
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 昼光制御				<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-		
3.3 照度	事務室の照度510lx			<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-		
<b>4 空気環境</b>				<b>3.6</b>	0.25	-	-		<b>3.6</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50	-	-		
1 化学汚染物質	全体的にF☆☆☆☆を採用している			<b>4.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-		
4.2 換気				<b>3.3</b>	0.30	-	-		
1 換気量	建築基準法の1.4倍以上の風量となっている			<b>5.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-		
2 自然換気性能	有効開口面積が事務室床面積の1/30以上			<b>4.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-		
3 取り入れ外気への配慮				<b>1.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-		
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-		<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.2</b>	0.40	-	-		<b>3.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1 広さ・収納性	一人当たりの執務面積(事務室)77.5㎡÷5人=15.5㎡			<b>5.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-		
2 高度情報通信設備対応				<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-		
3 バリアフリー計画				<b>1.0</b>	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>3.6</b>	0.30	-	-		
1 広さ感・景観	事務室の天井高2.7m			<b>4.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-		
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース(食堂・休憩室)が、事務室の1%以上			<b>4.0</b>	0.33	-	-		
3 内装計画				<b>3.0</b>	0.33	-	-		
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.0</b>	0.30	-	-		<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				<b>3.0</b>	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.4</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管・排水管にBを使用			<b>5.0</b>	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2.4 信頼性				<b>2.8</b>	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
3 電気設備				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				<b>3.0</b>	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				<b>2.0</b>	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			4.3	0.30	-	-	4.3	
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-		
1	階高のゆとり	階高4.68m	5.0	0.60	3.0	-		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.069	5.0	0.40	3.0	-		
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.30	3.0	-		
3.2 荷重のゆとり			4500N/m <sup>2</sup> 以上					
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-		
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
3	電気配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく、更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-		
4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく、更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	2.8	
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI <sub>m</sub> =0.61	5.0	0.02	-	5.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.12	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.76	3.4	0.61	-	3.4	
4 効率的運用			3.0	0.24	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-		
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価			-	-	-	-		
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-		
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0	
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1 節水			泡沫水栓・節水コマ付水栓・節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6	
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.22	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.22	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			OAフロアを採用	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-		
1	消火剤		-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材を使用していない	5.0	0.50	-	-		
3	冷媒		3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1	
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が84%	3.6	0.33	-	3.6	
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5	
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制	評価するポイントが4ポイント	5.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-		
1	騒音		3.0	0.33	-	-		
2	振動		3.0	0.33	-	-		
3	悪臭		3.0	0.33	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-		
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	評価する取り組みが4ポイント	5.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		